



バオバブ ディギタータ (Adansonia digitata)



バオバブの花

バオバブは正式名称をアダンソニアと言い、バオバブと言う呼び方は、16世紀にアフリカを旅したイタリア人植物学者が「バ・オバブ」と著書に記したのが始まりと言われ、もとは、アラビア語の「ブー・フブー」(種がたくさんあるもの)に由来するという説があります。アフリカに1種、マダガスカルに6種、オーストラリアに1種あり、全部で8種とされていますが、マダガスカルにはいまだ未発見のバオバブがあるとも言われています。

さて、ときわミュージアムのバオバブはセネガルから船に乗ってやってきました。今年も順調に花を咲かせ、今年は京都府立植物園より花粉をいただき、人工授粉を試みました。花粉の相性があるらしく、結実するかどうかはこれからのお楽しみです。

バオバブの果実はサルが食べに来ることから「サルのパン」とも呼ばれ、カルシウムやビタミンが豊富に含まれるそうです。また葉も種も食用にされ、樹皮は万能薬と考えられています。不朽の名作「星の王子さま」の中では、星を滅ぼしてしまう木として描かれていますが、現実世界では人々の暮らしに必要な大切な木なのです。

カトレア (Cattleya)

洋ランの女王とも言われている人気のカトレア。原種は主に中央、南アメリカの熱帯地域の樹木や岩場に着生して生育しています。イギリス王立植物園 キューガーデンの植物データベース World checklist によりますと、自然交雑種も含めて約190種(2018年9月現在)が発見・登録されています。女王と呼ばれている由縁は、美しい花と多くの種類が香りの良いものが多いことからだと思われます。コロンビアなどの中央、南アメリカでは、国花としている国もあるほど、愛されている花です。

ときわミュージアムでは、原種カトレア約40種、カトレアの交配種、約180種を育成温室で栽培しており、開花したものを熱帯アメリカゾーン、特別展示室にてご覧いただけます。昨年からは、ときわミュージアムで交配した種子を、宇部ラン会の会員様の培養施設をお借りし、無菌播種、培養作業を行い育成した株が開花し始めました。ここでしか見ることのできない、オリジナル交配種もお楽しみいただけます。



カトレア ティグリナ



ミュージアムオリジナル品種

見どころカレンダー（10月～12月）

	植物名	10月	11月	12月
熱帯植物	メディニラ スペキオサ(花・実)			
	サガリバナ			
	モンキーバナナ			
	シマヒギリ			
	チャイニーズハットツリー			
	バンレイシ(実)			
	アリストロキア トリカウダタ			
	ベニツツバナ			
	パキスタキス			
	バンジロウ類(実)			
	原種系ハイビスカス			
	ジャスティシア フルーツカクテル			
	バオバブ			
	カナリナ カナリエンス			
サボテン	サンカクチュウ(実)			
	奎キリン			
中庭	バラ			
	クレマチス ヴィチセラ			
ラン	オンシジウム			
	デンファレ			
	カトレア			
屋外	宿根サルビア			
	シオン			
	パンパスグラス			
	ススキ			
	パニカム			

※昨年までの開花時期から予想しております。 天候や気温などにより時期が前後する場合がございます。ご了承ください。

植物の名前の覚え方？

山や自然が好きな私が植物栽培の仕事始めて一年と数カ月となりました。当初は、館内外の掃除が主な仕事。そして植物の名前を覚えること。掃除嫌いの私でも仕事となれば汗をかきながら掃除をしますが、問題は植物の名前を覚えること。還暦近い固くなった頭では、思うように名前を覚えることができません。しかも多くの植物は初めて聞く名前ばかりで植物によっては学名の物も。しかし比較的早く覚えたのが15文字もある“アリストロキア サルバトレンシス”でした。言わずと知れた面白い花(実際は萼)の植物です。この花に興味をもつと簡単に覚えることが出来ました。未だに覚えきれない植物がたくさんありますが、もっと植物の特徴に興味をもつと簡単に覚えることが出来るのですね。

(植物栽培スタッフ 村田)

